

## 2度と戦争しないためにも 日本共産党の頑張りを！

### 民報藤島の会開く

アジア太平洋戦争開戦73年の12月8日を前に6日、駅前町内会館で「民報藤島の会」が開かれ、初めての人や女性も多く30人余りが参加しました。

加藤鉦一編集責任者、佐藤武駅前町内会長の挨拶に続いて、笹山一夫選対本部長が、選挙区は長谷川つよし、比例は日本共産党と書いてと訴えました。

#### 戦時体験と農業を語る

1部「戦時体験と農業を語る」では、始めに太田榮市氏が「農業に一言」と題して、「農



民報藤島の会で挨拶する加藤鉦一市議（6日、駅前町内会館）

家は政府の農政の通り農業をやってきた。その結果が米では暮らしに回すお金が出ない現状だ。だから政府に補償を求めよ」と訴えました。

鈴木重雄さんが、故鈴木雪子さんの戦時体験を聞き書きした老人クラブの文集を紹介し、満州に開拓団として渡り、3歳半の次男と妊娠7カ月の身重の逃避行で、子どもはみんな亡くしてしまった戦争の悲惨さを語りました。

本間勇さんは、軍人の子として志願して戦争に行ったこと、シベリア抑留の4年間の体験、2人の兄も戦死したこと、A級戦犯も祀られている靖国神社に対する疑問、そして戦争は絶対に駄目です！と強く訴えられ、2度と戦争しないためにも、日本共産党の頑張りを期待すると述べました。

#### 故菅原文太さんの播いた種

司会者の青山崇氏が

先月末に亡くなった故菅原文太さん妻・文子さんのコメント、「小さな種をまいて去りました。一つは、先進諸国に比べて格段に生産量の少ない無農薬有機農業を広めること。もう一粒の種は、日本が再び戦争をしないという願い（を叶えるため）共に声を上げること」を紹介、参加者は不戦の誓いを新たにしました。



#### 誰のための知事か、オボゲダゼ

オボゲダゼ。政治権力というものをマザマザと見せつけてくれたではないですか。その人は仲井真という沖縄の知事ですよ。

▼この人、先月16日おこなわれた新しい基地をつくることの賛否を問う選挙で基地推進を掲げて負けた知事ですが、国が申請した埋め立て工事の計画変更を承認したというのです。任期が12月9日迄なので自分の権力が及ぶ5日にそれを出したとの報道にオボゲダです。▼結果この人は、誰のために知事になつていたかは歴然ですネ。選挙のたびに立派なことや言っているように、県民の願いを背負って当選したのではなく沖

2部「平和と幸の年を望む」望年会では、伊藤豆腐店(十文字)の豚汁で飲み交わし、共産党への期待・支持の声も上がり互いの親交も深めあいました。

●藤島地域の市長と語る会  
12月17日（水）13時30分  
場所：藤島地域活動センター  
主催：藤島町内会長会  
●市指定文化財「藤島城跡」  
堀のかいほりの実施  
実施時期 12月上旬から  
担当：藤島庁舎総務企画課

縄復興という国の力ネを背に県民をゴマカして知事になっていたのだ。

▼なんと県民は不幸なことか。だからせめて夜だけでも安心して寝られるようにという騒音が減ることがなく、もっとすごい騒音のオスプレイが我が物顔なのかも、と思う。

▼とにかく選挙では、新しい基地を進めることには反対だというのが大差で勝ったんです。これには政府の大物がまたも沖縄復興と称して何百億円というカネを見せつけても県民は動じなかったのだ。▼だから県民のことを第一に考えなければならぬ知事は、県民の決定に従うのが民主主義で、このようなことは道義的にも許されないうことでしょう。（石川）

# 比例は 日本共産党へ

# 引きこもり高校生の心を変えた鷺畑山古墳発掘 鶴南高通信制 富樫有里さんの体験発表

すでに、『庄内日報』11月5日付、『山形新聞』11月21日付で、それぞれ「北海道・東北高校通信制の生活体験発表 富樫さん(鶴南3年 優勝、全国へ)」「鶴南高通信制 富樫さん体験発表 古墳の発掘 自分変えた」として紹介し発表の要旨を記している。

それで、私は発表の全文コピーを富樫さんからもらい読ませていただいた。  
発掘がこのような力もあるのか、と久しぶりに八十路の感涙を流した。

私だけでは勿体なく、2200字に及ぶので、はじめの「引きこもり」の部分は割愛し、以下の全文を紹介したい。なお、ご本人・ご家庭からご承諾を得ている。(青山記)

## 「沢山のきっかけと巡り合い」 鶴南高通信制 富樫有里

(前略)

そうして過ごしていたるうちに18歳になった。同じ年の子は受験や就職などに悩んでいたが、相変わらず私の生活は変わらなかつた。けれど、夏のある日、学校の歴史の先生(注・藤島中町、万年利浩先生)に声をかけられた。「9月に庄内で発掘調査があるのだけど、行ってみたい？」と。それは鶴岡市添川の鷺畑山古墳という古墳だった。なぜ先生が私に声をかけたかというのと、邪馬台国などの古代史に興味があることを、先生が覚えていてくださったからだ。発掘なんてテレビでしか見たことがなかつたし、何をやるのかもわからなかつたが、とりあえず行くと返事をした。

そして、不安と緊張を抱きながら当日を迎えた。斜面での慣れない作業は大変だったが、掘っていて周りと同じ色の土や大き目の石が出てくると感動した。「次は何が出てくるかな」とワクワクした。朝起きて、ご飯を食べながら、夕方に帰ってくる。そんな普通のことが、私にとっては久しぶりだった。

発掘終了後、わたしの生活は元通りになったが小さな変化が起きていた。新聞や広告で、考古学関係の講演会や博物館の企画展示の記事を見つけると、出かけるようになっていた。11月には山形市の方へ博物館と古墳を見に行つた。12月には新潟の

方へ、一人で電車に乗って古墳のシンポジウムを聴きに行ったりもした。そして次第に私の好きな邪馬台国の候補地の一つである奈良に行きたいという思いが募っていた。だが、行くにしてもお金がない。それで、今年の4月からアルバイトを始めた。慌ただしく大変だったが、くじけそうになつたが、奈良に行くためならと頑張れた。6月には鷺畑山古墳の2次調査があり皆さんに久しぶりに会うことができた。

そして6月中旬、とうとう一人で奈良に行つた。知らない土地の景色は、ずっと引きこもっていた私にとってとても新鮮だった。また、博物館で見た多くの考古資料は、知識と

して知ってはいたが、実際に見たらとても感動したし美しかった。古墳も周りの景色と相まって威厳が増し、古代を彷彿とさせる雄大な姿だった。2泊3日の旅行は、あつという間で、帰りのバスで帰りたくなくて泣くほどだった。

6月いっぱいアルバイトは辞めたが、7月には鶴岡市の発掘調査のアルバイトをさせていただいた。近世の遺跡で、古墳の発掘とは全然違うし、周りにはベテランの作業員さんばかりで緊張したが、とても貴重な体験になつた。

発掘が終わり、ゆっくりとした日々を送っていたある日のこと。「あと2カ月くらいでまた9月だな」と気がついた時にふと思つた。この一年で、私の人生ががらりと変わった。毎日、何もしない代り

映えない日々が、この1年で、発掘に参加し、講演会に行き、山形市、新潟、そして奈良にまで行った。こうなるとは以前の私には想像もつかなかつた。

もしあのとき先生に声をかけてもらつていなかったら…。そもそも発掘がなかつたら…。私が先生に古代好きを言つていなかったら…。この学校に入学していなかったら…。沢山のきっかけがあり、今の自分があることに気付いた。もしあのまま全日の学校に通つていたら、出会えなかつたら、出会えなかつたものが沢山あることにも気付いた。

一つがとていとおしくなつた。それくらいこの1年の出来事は、私にとってかけがえのないものになつていった。

8月に、また奈良に行つた。オープンキャンパスに参加し、自分の今後を決めるために私は大学に進学したいと思つている。将来、奈良で学んだことを、地元庄内で活かしたいと考えているからだ。まだ不安だらけで、迷つたりもするが、私にはこの1年がある。沢山のきっかけで出会つた。沢山のかげがえのない思いが。それを胸に抱いて私は歩んでいく。これからの新しい出会いに向かつて。(注：奈良大学文化財学科合格)



鷺畑山古墳1号の発掘調査の様子 (2013.09)